

# ぎふの木ネット協議会 特別フォーラムのご案内

ぎふの木ネット協議会では、今年の12月前に特別フォーラムを開催いたします。

昨年は12月に行い、多くの工務店・ビルダー、メーカーさまにご出席いただきました。

今回も特別講師をまねき、今の住宅業界が抱える問題や今後の木材利用の課題についてのヒントを得られる良い機会かと思ひます。

ぎふの木ネット協議会 特別フォーラム

テーマ  
次は「エネルギー」だ！  
エコハウスのすすめ



テーマ『次は「エネルギー」だ！エコハウスのすすめ』

日にち:11月29日(金)

受付開始:13:00~

開会時間:13:30~

場所:岐阜グランドホテル 西館2F「雪の間」

〒502-0071

岐阜県岐阜市長良648

日時 2024年11月29日(金)  
13:30~17:00(受付13:00~) ※予定

場所 岐阜グランドホテル 西館2F「雪の間」  
〒502-8567 岐阜県岐阜市長良648 ☎058-233-1111

特別講演 心地よいエコな住まいのつくり方

講師 岐阜県立森林文化アカデミー  
社 充孝 教授



岐阜県立森林文化アカデミー助教・一級建築士・ハウビオローグ(BI)。1973年兵庫県生まれ。'96年に大阪芸術大学建築学科を卒業後、M&S建築設計事務所に入所。5年間の実務経験を経て2001年の岐阜県立森林文化アカデミー一級立時から教職に就く。建築計画、温熱環境の研究、講義を受けもつと同時に、木造住宅や木造建築の設計に携わる。

【スケジュール】※一部時間などが変更になる可能性もございます。

[13:00~]	[13:30~]	[14:00~]	[14:30~]	[16:10~]	[17:00~]
受付開始	フォーラム開会	ブース見学	社先生 講演	事務局より発表	終了予定

各メーカーさまから関連する商品の展示ブースも設けております。

ぜひとも予定を空けてお越しくださいますようお願いいたします。

<ご出展メーカー>



2024.10

## ぎふ木遊館 企画展示

ぎふの木ネット協議会として、企画展示させていただく機会がございます。

時間のご都合がございましたら、ぜひ ぎふ木遊館さまへ足をお運びください。



ぎふ木遊館さまHPより 館内MAP

期 間:令和7年 1月11日(土)  
~ 2月 2日(日)

場 所:ぎふ木遊館

住 所:

〒502-8503

岐阜県岐阜市学園町2-33

展示内容などは決まり次第、ご案内いたします

## ぎふの木ネット協議会会員へ 特別なご案内

ぎふの木ネット協議会会員さまへ、シーシーエヌ株式会社さまからお得な特別プランのご案内です。  
一般には掲示のないプランで5年間最安値と伺っております。

価格情報		
サービス	1年目	毎月 2,640円
	2~5年目	毎月 4,290円
	6年目以降	毎月 5,940円
※ 価格はすべて税込み		

その他、  
レンタル機器 無料(2台)  
キャッシュバック 1万円 などの**特典**がございます。

詳しくは協議会までお問い合わせください  
TEL:058-271-3111

## 令和6年 ぎふの木ネット協議会 イベント予定

ぎふの木ネット協議会の令和6年度行事予定についてお知らせいたします。

11月 2日(土) 岐阜県主催 ぎふ森の恵み感謝祭  
3日(日) 岐阜メモリアルセンター 芝生広場にて

11月29日(金) ぎふの木ネット協議会 年末フォーラム  
会場:岐阜グランドホテル2F 雪の間  
テーマ:『次は「エネルギー」だ! エコハウスのすすめ』

昨年度12月に行いました年末フォーラムでは、第一部ではサプライチェーンや協定、健康住宅について大変に参考になる内容でご好評をいただきました。  
ぜひとも予定を空けてくださいますようお願いいたします。



## 会員の方への情報を募集します

会員の皆様へのご報告として、ぎふの木ネット通信を発行し(年6回程度)、協議会の活動報告などをお伝えしていきます。

今後は会員の皆様同士の情報共有を図るために、皆様からの貴重な情報を頂き、その情報を会員の皆様へ周知したいと考えております。

展示会や近況など、お知らせしたい内容がありましたら、ぜひ事務局までご連絡ください。

(チラシなどの印刷物をご提供いただければ、ぎふの木ネット通信の中に同封して会員の皆様にお送りします。)



### <国産材から外材への歴史>

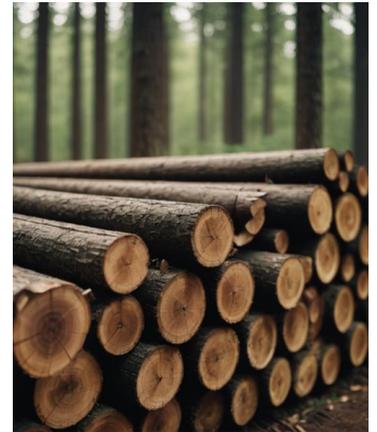
昭和20年太平洋戦争終結。敗戦国日本は復興の為大量の木材を必要としたことから国産材の価格は高騰しました。そこで安い外材を輸入しやすくしようとして関税の撤廃を推進。昭和26年には丸太関税撤廃、昭和39年には木材貿易完全自由化に至りました。

その一方で将来の木材需要に対応しようと打ち出した拡大造林政策では遊休地、草地はもちろん広葉樹林を伐採してまで人工林化を推進。全国で針葉樹(杉・松・カラ松など)人工林化が進められ、日本の森林面積の40%(国土面積の1/4)を占めるまで拡大しました。ところが木材貿易自由化以来半世紀の間に木材市場は、安くて豊富な外材に席卷されました。昭和30年には95%だった国産材自給率は気が付けば平成10年代に18%にまで落ち込みました。

国産材価格も昭和50年ごろをピークに一時3割くらいまで下落し、その結果、林業の不振により、農山林から若い働き手が流通し山林労務者は高齢化、人工林の間伐などの保育手入れも不十分な状態が続いています。

### <この40年ほどの間の大きな変化>

1985年	インドネシア丸太輸出禁止(輸入合板時代到来)
1988年	日ソ合弁第一号イギルマ大陸(北洋材時代)
1992年	第一次ウッドショック(環境問題、南洋材暴騰から他樹種も高騰)
1993年	欧州材到来(南、米、北、NZ、チリに次ぐ5大外材)
2006年	第二次ウッドショック(輸入合板暴騰)
2007年	ロシア丸太輸入税引き上げ(ロシア材離れ)
2008年	リーマンショック(新築100万戸時代の終焉)
2021年	第三次ウッドショック(空前の木材価格暴騰)



### <外材に振り回される日本>

先日業界新聞にこんな記事が掲載されていました。

「米松製品m3 3,000円くらい値上げ」「集成平角m3 3,000円~5,000円値上げ」

急激な円安や、コストアップによる値上げの様ですが、為替や現地での事情に大きく供給が左右されます。前回のウッドショックも外材が要因であります。米国の金利水準も物価上昇率の低下(一時9%位→3%へ)もあり引き下げられる予測があり国内金利も上昇傾向にあります。日本の財政的に大幅な債務超過を考えると、大きな金利上昇は考えづらくかつての様に大きく円高に振れる事はなさそうです。

つまり当面国産材の優位性が続きそうです。

### <今後、外材使用のメリット>

	国産材	外材
価格	○	△
脱炭素化	◎	△
強度	△	○

価格的に見ても、今後為替や資源的政治的な安定性を考えるとき、国産材優位の状況となりそう。

また、脱炭素化やSDGsの観点からもCO2排出量は国産材の場合、外材に比べ1/2から1/4くらいで収まり、明らかな差がつかます。

ただ、せんだん力などについては集成や米松が杉を上回っており、今後杉と異素材とのマッチングや桧ケタを利用する事で課題を解決しなければならない。

とくに花粉症対策で今後杉・大径木の出材の増加予測があり、この有効利用こそ業界のミッションであります。



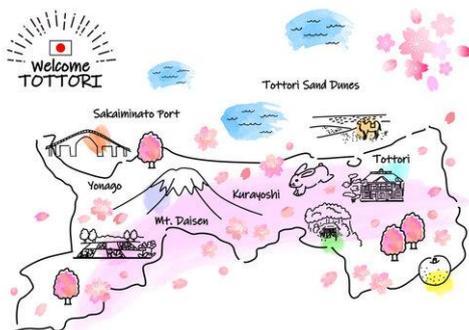
# 木材産業(鳥取モデル)と(岐阜モデル)について

## <民間 行政 一体モデル ……森林技術者の若返り>

	岐阜県	鳥取県
人口	195万	54万
人工林資源(7齢級以上)	1.03億m <sup>3</sup>	0.43億
森林率(ランキング)	81%(2位)	74%(31%)
生産量(バイオマス別)	36万m <sup>3</sup>	25.4万m <sup>3</sup>

鳥取県は全国で一番人口の少ない県として有名となり現在54万人ほどで岐阜市の3割増しほどです。

山陰の小さな県で、取り立てて大きな産業が少ない県で人口は岐阜県の30%以下ですが、木材生産量は70%以上です。資源を有効に使っている県である事がデータからも伺えます。



## <LVLやCLTへの先進的取り組み>

訪問した先は(株)オロチという会社です。所在地は島根県、広島県、岡山県との県境にある日南町というところで、町の9割が山林という林業の町です。

日南町においては、年間成長量 150,000m<sup>3</sup>に対して、年間消費量が126,000m<sup>3</sup>であり、成長量の84%位を消費するサステイナブルなバランスとなっています。

LVLとは、原木を合板の様にロータリーレースという機械で「かつら剥き」の様に3m/mほどの厚みで薄く切削し、それを何層も貼り合わせた製品で、お菓子でいうバームクーヘンの様な感じです。完全なエンジニアリングウッドですが、貼り合わせることで木材強度が上がる事も実験済のようです。E60がE90位になる様ですが表示はE60としか表示できないとの事でした。杉・桧ともに生産可能です。

日南町丸太消費量	年間 126,000m <sup>3</sup>
オロチ消費量	48,000m <sup>3</sup>
木材市場消費量	40,000m <sup>3</sup>
チップ工場消費量	38,000m <sup>3</sup>

## <営業が生産計画>

まず規模感と省力化にビックリしました。53,000m<sup>2</sup>の敷地と省力化させたライン、そして何より感心したのは営業が生産計画を立てているとの事。

ウッドショック時、我々流通段階では合板不足で大変苦労いたしました。そういった経験も踏まえ、需要と供給のバランスをコントロールする事こそ、大切でありそのスピード感が問われます。まさしくプロダクトアウトからマーケットインへの発想の転換です。歩止まりは75%位まで上がってきているとの事で製材工場より優位性が高いようです。

## <今後に向けて>

大きな流れ



新設住宅着工の急速な減少  
80万戸 → 50万戸  
非住宅構造やオフィスなどの木質化加速  
脱炭素化 CO2固定化や削減

今後

県産材ラミナー生産増 → 構造用集成材の生産  
CLT、LVLの生産、BP材等の合わせ梁  
端材の有効利用 など

鳥時流に合わせた商品構成や生産ラインの変更にもスピーディに取り組む必要を感じました。また、今回訪問したLVL生産「オロチ」の最大の株主は日南町森林組合であります。安定的な需要の下で素材生産も増え、特に山側で大きな変化があり山林技術者に若い方がどんどん増えており、活性化が進んでいる事です。

岐阜も他県に学ぶことが多いと感じました。



ぎふの木ネット協議会

